

- ・ 引き続き第 2 回、第 3 回を実施する予定である。

《委員、学生等に対するアンケートの実施について》

- 事業アーキテクトコース関連科目を積極的に履修している学生を対象に、当コースに関連する調査アンケートを実施した報告がなされた。
- 委員からは、学生への意見聴取を 1 回のみで終えるのではなく、今後も実施してほしいとの意見が出された。

《事業アーキテクトコース関連講義科目の検討・検証》

- 当コース関連講義科目について現状を確認し、意見交換を行った。
 - ・ 講義形式だけでなくグループワークを積極的に採用するとよい。
 - ・ 現場実践を伴う科目を設定すると、修得した能力を PBL で生かしていけると考える。
 - ・ オムニバス形式の授業を開講しているが、こうした授業は何らかの軸を設定し、講義全体のストーリーを作っておくと理解が促進される。

《平成 28 年度実施の PBL について》

- 平成 28 年度実施予定の当コース関連 PBL について、現状の検討状況を報告した。学生の配属条件や実施形式を両専攻で検討中であり、当コース所属学生のみでの PBL とするか、他コースとの混合 PBL とするか等も含め、今後決定する予定である。

《今後実施予定の事業内容について》

- 今後実施予定の事業内容について確認がなされた。
- ワークショップ等、昨年度実施した取組を引き続き行う他、PBL キャンプや外部評価委員会の開催等、今年度新たに実施予定の事業があることが説明された。

2.1.3 第 5 回社会人学び直し推進委員会

- 日時:2016/02/23(火) 15:30-17:30
- 場所:産業技術大学院大学 308 室
- 出席者:
(産業技術大学院大学委員)
 - 小山 裕司 氏(産業技術大学院大学 附属図書館長 情報アーキテクチャ専攻 教授)
 - 酒森 潔 氏(産業技術大学院大学 情報アーキテクチャ専攻長 教授)
 - 國澤 好衛 氏(産業技術大学院大学 創造技術専攻長 教授)

- 亀井 省吾 氏(産業技術大学院大学 特任准教授)
(外部委員)
- 但田 潔 氏(NEC マネジメントパートナー株式会社 マネジメント研修事業部エグゼクティブエキスパート)
- 菊池 純男 氏(株式会社日立製作所 情報通信システム社 室長付)
- 上野 新滋 氏(FUJITSU ユニバーシティ エグゼクティブ・プランナー)
- 為谷 素也 氏(横河電機株式会社 渉外室 担当部長)
- 浅見 貴之 氏(楽天株式会社 グローバル人事部副部長 HR ディベロップメント課課長)
- 小松 宏行 氏(株式会社ワークスアプリケーションズアドバンスド・テクノロジー&エンジニアリング本部 Executive Fellow)
- 岩田 真一 氏(Atomico 日本支社代表)
- 議事内容
 - 《PBL キャンプの実施報告》
 - 平成 27 年 12 月から平成 28 年 1 月にかけて、3 日間の合宿を含め計 5 日間実施した PBL キャンプの実施報告がなされた。外部委員会から以下のような意見が出された。
 - ・ PBL キャンプとその後の PBL とで、テーマのつながりがあると、より効果が高まる。
 - ・ 今回実施したフィールドワークは重要である。ただし、現場を観察する正しい視点を養うことは容易ではない。
 - 《平成 28 年度ワークショップの実施報告》
 - 平成 28 年 1 月 29 日(金)に早稲田大学の大江講師及び中央大学の飯尾講師を招聘して本学で実施した「専門職大学院における高度人材育成のための教育手法に関するワークショップ」について報告がなされた。
 - ・ 平成 26 年度は教育内容をテーマに実施したが、27 年度は更に一步踏み込んで教育手法をテーマに実施した。
 - ・ 学内からは戸沢教授がケース授業について、越水教授が PBL について講演を行った。また、小山教授が当事業の 27 年度成果報告を行った。
 - 《AIIT 起業塾の開催報告》
 - 前回委員会の開催後に実施した計 3 回の AIIT 起業塾について報告がなされた。
 - ・ 第 3 回は「医療×IT」、第 4 回は「観光×IT」、第 5 回は「地域活性×IT」をテーマに実施し、全て盛況のうちに終了した。
 - ・ 平成 28 年度は、27 年度に好評だったテーマに加え、ファッションなど新たなテーマも検討する予定である。

- 委員からは、次のような意見が出された。
 - ・ テーマも講演内容も非常に魅力的である。本学学生にも積極的に参加してもらいたい。また、Web 配信など、現地に行くことのできない人も視聴できる仕組みがあればよい。
 - ・ 社会人学び直し推進委員会委員の所属企業社員にも役立つイベントのため、社員への参加を呼びかけることは有効である。

《ケースメソッド教授法セミナーの実施報告》

- 平成 27 年 7 月から平成 28 年 2 月にかけて計 4 回実施したケースメソッド教授法セミナーについて報告がなされた。
 - ・ 第 1 回から第 3 回までは慶應義塾大学の竹内講師のリードにより、ケースメソッド教育の概要のレクチャーや、ディスカッションリードデモ等を実施した。第 4 回は元日本ケースセンターの稲葉講師を招聘し、ケースの開発方法等についてレクチャーを受けた。
 - ・ ケース授業の実施に当たっては、大学組織全体として積極的に導入するという姿勢が重要であるため、今後も引き続きこうしたセミナーを実施していきたい。
 - ・ ハーヴァードビジネススクールが作成するケースなど、現状作成されているケースのほとんどは経営に関するものである。本学のように IT 系やものづくり系の能力を養うためには、オリジナルのケースの開発も検討するべきである。

《事例研究型授業の実施報告》

- 事業アーキテクトコースの新規開講科目として実施した事例研究型科目「事業アーキテクチャ研究」と「事業アーキテクチャ設計」の実施報告がなされた。
 - ・ 本学の PBL は全国でも有数のレベルにある。これに加えて新たな教育手法を取り入れるため、ケースを活用した授業を実施した。
 - ・ 講義科目におけるディスカッションでケース的手法を取り入れると有効かもしれない。また、ケースを取り入れた科目は学生に予習を求めるものであり、事前学修を促す意味でも効果が見込まれる。
 - ・ 他方で、本学の PBL は非常に高い水準にあり、PBL で得られる実践的な能力をケース型授業だけで得られると考えているわけではない。それぞれの手法の意義を理解することが重要である。

《平成 28 年度のカリキュラムに関する報告》

- 事業アーキテクトコースに関して、平成 28 年度に実施予定のカリキュラムと、28 年度の新規開講科目「コンセプトデザイン特論」について説明がなされた。

- ・ 27 年度に開講した科目については、大きな変更はしない予定である。
- ・ 新規開講科目「コンセプトデザイン特論」は、ものづくりの最上流工程である提案段階の能力を養うものであり、そのための手法として「シナリオ・プランニング」と「エスノグラフィのビジネス応用」を扱う。
- ・ 委員からは、講義の最終回にベンチャーキャピタルに出席していただき、実現可能性等について意見を聞くのもよいとの意見が出された。

《平成 28 年度実施の PBL に関する報告》

- 平成 28 年度実施予定の当コース関連 PBL について、配属状況を報告した。
 - ・ 事業アーキテクトコースの学生と、これ以外のコースの学生が合同でチームを形成し、PBL を実施する。
 - ・ PBL における事業アーキテクトコースの学生の役割は、現状では各 PBL によって異なる。PBL によっては、プロジェクト当初の企画・戦略と、プロジェクト後半の普及の段階で事業アーキテクトコースの学生が大きな役割を担い、プロジェクト途中の設計・実装・運用段階ではこれ以外のコースの学生が大きな役割を担うという役割分担も期待される。

《平成 28 年度事業計画及び予算申請の報告》

- 平成 28 年 2 月 22 日(月)に、平成 28 年度の事業計画書及び予算内訳表を文部科学省へ提出したことについて確認がなされた。

《外部評価委員会について》

- 平成 28 年 3 月 2 日(水)と 3 月 7 日(月)に開催する予定の外部評価委員会について説明がなされた。
 - ・ 外部の有識者 5 名を委員とし、当事業について、書面確認書に記載の項目に沿って評価を受ける。
 - ・ 全ての項目について評価がよい場合だけでなく、改善点が指摘された項目についても真摯に受け止め、28 年度以降の事業運営に反映していく。

《その他》

- 事業アーキテクトコースのリーフレットが紹介され、事業の広報に積極的に活用していることが報告された。

2.2 プログラム開発委員会

2.2.1 第3回プログラム開発委員会

- 日時: 2015/05/22(金) 15:00-17:00
- 場所: 産業技術大学院大学 269 室
- 出席者
(産業技術大学院大学委員)
 - 小山 裕司 氏(産業技術大学院大学 附属図書館長 情報アーキテクチャ専攻 教授)
 - 酒森 潔 氏(産業技術大学院大学 情報アーキテクチャ専攻長 教授)
 - 越水 重臣 氏(産業技術大学院大学 研究科長補佐創造技術専攻 教授)
 - 戸沢 義夫 氏(産業技術大学院大学 情報アーキテクチャ専攻 教授)
 - 吉田 敏 氏(産業技術大学院大学 創造技術専攻 教授)
 - 陳 俊甫 氏(産業技術大学院大学 創造技術専攻 助教)
 - 文屋 宏 氏(産業技術大学院大学 特任助教)
(外部委員)
 - 平山 敏弘 氏(日本 IBM 株式会社 上級 IT スペシャリスト)
 - 花田 徳康 氏(メドコネク株式会社 代表取締役)
 - 鴻巣 英典 氏(株式会社 mediba 新規事業企画部 部長)
 - 釦持 勝 氏(イー・リゾート 代表)
 - 飯尾 淳 氏(中央大学文学部 社会情報学専攻 教授)
- 議事内容
《平成 26 年度事業の活動報告》
 - 決算報告について説明が行われた。
《平成 27 年度事業計画について》
 - 昨年度の事業計画に基づき、新規事業等を加筆修正した内容であることが説明された。また、昨年度からの変更点や成果として以下の点が説明された。
 - ・ 約 100 名の新入生に対し実施した事業アーキテクトコース説明会に 37 名が参加し、当初想定の 10 名を超えた。
 - ・ 外部評価委員会の設置を予定している。
 - 第 3 第 4 クォータでの実施科目の内容について検討、調整中であり、講義によっては委員の方をゲスト講師として招聘する可能性があることが説明された。

《平成 27 年度事業の進捗報告》

- 事業アーキテクトコースに該当する科目、新規開講の科目（リーダーシップ特論等）、ゲスト講師招聘型の講義の説明が行われた。

《授業見学について》

- 以前学外委員より希望があった授業見学を実施することが述べられ、希望する場合は、日時と講義科目を事務局へ連絡することで席が確保されることが説明された。

《AIIT 起業塾について》

- AIIT 起業塾について、文屋特任助教より以下の説明がなされた。
 - ・ 前回のテーマが「IT」であったため、今回は趣旨を変更し「ものづくり」に関連したテーマで進めている。
 - ・ その他、「宇宙ビジネス」というテーマも検討中である。
- 小山教授より、飯尾教授（中央大学）の推薦で養蜂家のご紹介があったことが指摘された。今後、養蜂（畜産）と異なる産業を組み合わせることで AIIT 起業塾に招聘することを検討することとなった。

《カリキュラム開発に関する意見交換》

- 平成 27 年度カリキュラムについて意見交換を行った。
 - ・ 事例研究型科目に関して、慶応義塾大学ビジネススクールを活用したセミナー等の開催を検討する。
 - ・ 委員あるいは学生を対象としたアンケート等の調査を検討する。
 - ・ 当教育プログラムの知識体系や開講する授業科目について、引き続き検討を行う。
 - ・ より実践的な教育を行うため、企業とのコラボレーション方法を検討することも有用である。

《委員からの協力について》

- スタートアップ戦略特論等関連科目について、委員を外部講師として招聘する等の協力を依頼する予定であることが説明された。